Ⅳ-1 北海道

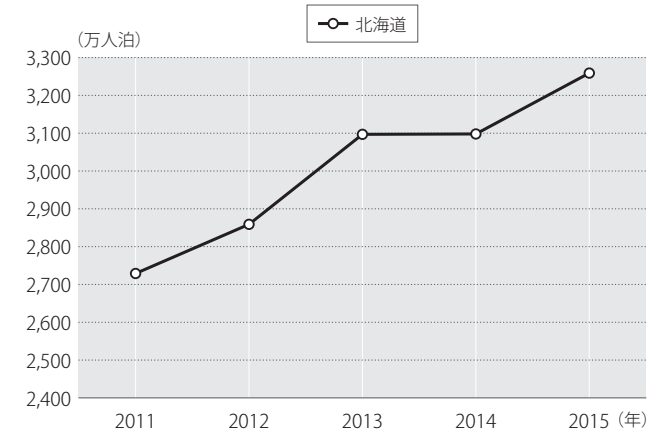
北海道新幹線開業により道南でさまざまな取り組み
知床世界自然遺産の10周年
VRを使った美唄市の日本初の取り組みにも注目

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計」によると15年1月から12月の北海道の延べ宿泊者数については、3,259万人泊となり、前年比プラス5.2%となった（図Ⅳ-1-1）。都道府県別に見ると東京都に続き全国第2位の数字である。

一方、外国人延べ宿泊者数については、564万人泊となり、前年比プラス45%と昨年に続き大幅増となった（図Ⅳ-1-2）。

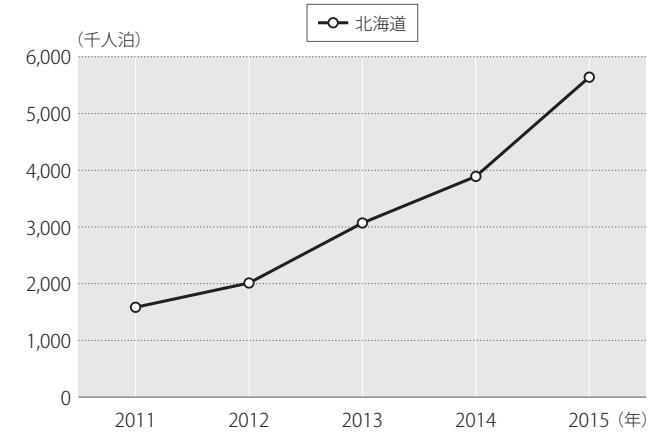
図Ⅳ-1-1 延べ宿泊者数の推移（北海道）



北海道	2,729	2,859	3,097	3,098	3,259

単位：万人泊
資料：観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

図Ⅳ-1-2 外国人延べ宿泊者数の推移（北海道）



北海道	1,584	2,012	3,070	3,891	5,641

単位：千人泊
資料：観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

北海道の「観光入込客数調査」（北海道庁）によると、15年1月～12月の延べ宿泊者数は3,471人泊（前年度比5.9%増）である。これを道内圏域別に見ると、前年比の増加率が高い順に道央圏域（同7.5%増）、道北圏域（同5.4%増）、道南圏域（同4,6%増）、オホーツク圏域（3.5%増）、釧路・根室圏域（2.6%増）であった。十勝圏域については前年度を下回り1.2%減となった。

表Ⅳ-1-1 道内の圏域別延べ宿泊者数の増減 （単位：万人泊）

	2014年度	2015年度	前年度比増減
北海道	3,279	3,471	5.9%
道央圏域	1,879	2,021	7.5%
道南圏域	408	427	4.6%
道北圏域	422	445	5.4%
オホーツク圏域	180	187	3.5%
十勝圏域	198	196	▲ 1.2%
釧路・根室圏域	190	195	2.6%

資料：観光入込客数調査（北海道）

(2) 観光地の主な動向

●「観光立国ショーケース」に釧路市が選定される

観光庁は、15年1月、外国人旅行者の地方への誘客を図るモデル事業「観光立国ショーケース」に、石川県金沢市、長崎県長崎市とともに北海道釧路市を選定した。これは「日本再興戦略 改訂 2015」に基づき、各省庁の施策を集中投入することで総合的な観光地域づくりを行う取り組み。

釧路市は、「Super Fantastic KUSHIRO 世界トップクラスの自然に抱かれ、自然との共生文化を体感するカムイの休日」を目指すべき目標像として定め、その実現に向けて表Ⅳ-1-2の取り組みを行うこととしている。

表Ⅳ-1-2 観光立国ショーケースによる釧路市の取り組み

	取り組み
1	日本版DMO（候補）による訪日外国人旅行者マーケティング調査分析の実施
2	SNSを活用した外国人ニーズ調査事業の実施
3	地域の宝"自然""文化"を活かしたエコツアーなどの滞在プログラムの企画開発・提供および継続的なブラッシュアップの実施
4	地域の自然を活かしたアウトドアスポーツツーリズムの推進
5	自然の恵みに感謝する「伝統の食文化」等を活かした地域性あふれるおもてなしの実施
6	広域連携による新たなルート提案等をはじめ、Wi-Fi環境整備や2次交通ネットワークの構築、多言語化等の外国人旅行者受入環境整備、広域周遊ニーズに対応した情報発信による顧客創造・獲得の推進

資料：釧路市「観光地域での観光立国のショーケース化提案書」をもとに（公財）日本交通公社作成

●「水のカムイ観光圏」の新規認定

観光庁は、15年4月に「水のカムイ観光圏」～釧路湿原・阿寒・摩周～を新規認定した。構成市町は釧路市・弟子屈町で、観光園整備計画の期間は15年4月1日～20 年3月31日、観光地域づくりのプラットフォームは一般社団法人 釧路観光コンベンション協会が担う。富良野・美瑛（びえい）観光圏、ニセコ観光圏に続き、北海道では3番目の認定となる。

観光地域づくりの基本的な考え方（理念）として、「常に身近に貴重な自然環境と恵みを感じながら、守り育て享受してきた営みをベースとし、自然と共生する持続可能な地域社会の形成を目指し、『住んでよし、訪れてよし』の地域づくりを進化させていく」と定めた。

さらに、コンセプトを「水のカムイと出会える旅へ」とし、滞在プログラムの開発や公共交通網の整備、情報発信の強化などに取り組む。

●「アジアの宝 悠久の自然美への道　ひがし北・海・道」広域観光周遊ルート形成計画の認定

観光庁は「広域観光周遊ルート形成促進事業」において各地域からの計画の申請を受け、15年6月に7件を認定した。北海道からは「アジアの宝　悠久の自然美への道　ひがし北・海・道」が認定を受けた。主な内容は表Ⅳ-1-3の通りである。

表Ⅳ-1-3　広域観光周遊ルート「アジアの宝 悠久の自然美への道　ひがし北・海・道」概要

コンセプト	人と自然の織りなすデザイン。超自然が生んだ奇跡の絶景。この道を旅する時の醍醐味は、めくるめく風景、大地から海への食に至るまで、どこまでも続くコントラスト。世界でここだけのプライムロードひがし北・海・道
事業の概要	(1) 事業計画認定・マーケティング ●レンタカーデータ、本道最大の拠点・札幌からの導線の調査 (2) 受入環境整備・交通アクセスの円滑化 ●移動wifiの整備や、地方空港のゲートウェイ化を見据えた地上ルート形成施策 (3) 滞在コンテンツの充実 ●SNSによる商品開発、SNSから北海道各地の世界一 (4) 対象市場に向けた情報発信・プロモーション ●統合WEBを観光圏などと連携で実現
広域観光拠点地区	旭川、美瑛、富良野、トマム、帯広、十勝川温泉、上川層雲峡、北見、網走、摩周・川湯温泉、阿寒湖温泉、釧路、知床

資料：『プライムロードひがし北・海・道』推進協議会「アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道 形成計画」をもとに（公財）日本交通公社作成

●北海道新幹線の開業と地域への影響

16年3月26日に北海道新幹線の新青森～新函館北斗間が開業した。開業に伴い、奥津軽いまべつ駅（青森県）、木古内駅（北海道木古内町）、新函館北斗駅（北海道函館市）が開業した。運転本数は1日13往復で、このうち東京―新函館北斗間のはやぶさは1日10往復、仙台、盛岡、新青森発がそれぞれ1往復である。これにより、東京～新函館北斗間が最短4時間2分（新幹線開業前は約5時間30分）、新青森～新函館北斗間が最短1時間1分（同1時間50分）へと短縮された。

北海道新幹線開業に伴い、青函トンネルを通る在来線、特急にも廃止や増発が見られた。新青森～函館間の「スーパー白鳥」「白鳥」、青森～札幌間の夜行急行「はまなす」、上野～札幌の寝台特急「カシオペア」が廃止となり、札幌～函館間の特急「スーパー北斗」「北斗」が3往復増発され、1日当たり12往復となった。新函館北斗～函館間には新たに新幹線アクセス列車「はこだてライナー」が開業し、1日16往復で運行が開始された。また、JR江差線の五稜郭～木古内間の経営は北海道道南地域並行在来線準備会社が引き継ぎ、「道南いさりび鉄道」として運行が開始された。

新幹線開業に伴い沿線ではさまざまな取り組みが展開した。

函館市では15年8月に「函館アリーナ」がオープンした。本施設は、新幹線時代を見据えて函館市が“輝く都市未来像”への実現に向けて建設を進めてきたもので、スポーツ・レクリエーション環境の充実を図り、合わせてコンベンション機能を備える。また、15年10月には市内繁華街に、飲食店が出店する「五稜郭ガーデン」がオープンし、函館山ロープウェイも山頂展望台や駅舎なども改修を行った。

木古内町では、15年1月に木古内駅前に「道の駅みそぎの郷きこない」がオープンした。施設内には土産品や特産品を扱うコーナーの他、アル・ケッチャーノで知られる奥田政行氏が監修するレストラン「どうなんde's Ocuda Spirits」が併設されている。

北斗市では、15年5月にきじひき高原にパノラマ展望台がオープンした他、16年3月に観光交流施設「北斗市観光交流センター」がオープンした。

鹿部町では16年3月に「しかべ間歌泉公園」が道の駅としてリニューアルオープンした。新たに物産館や体験施設、漁協の女性部が提供する「浜のかあさん食堂」が設置された。

宿泊施設の改装や開業の動きも活発化した。函館国際ホテルは家具の入れ替えやバスルームの整備などに取り組んだ。野口観光（登別）は15年11月に「湯元啄木亭」の改装計画を発表、別館として「HAKODATE海峡（うみ）の風」を16年4月に開業した。トーホウリゾート（札幌）は湯の川温泉の「平成館しおさい亭」「別館花月」のレストランの改修を行った。

また、国土交通省による周辺交通の整備も進んでいる。新函館北斗駅と函館市街・函館空港・湯の川方面のアクセス改善のため、函館新外環状道路の函館IC～赤川ICが15年3月に開通した。函館新道の一部の四車線化や函館IC～七飯本町IC間の制限速度が緩和されるなど、新函館北斗駅から周辺地域への移動時間の短縮に繋がる整備が進んだ。また、道央方面のアクセス改善を目的として、北海道縦貫自動車道七飯～大沼の整備を促進中である。その他、インバウンド観光の推進に向けたソフト対策として、道路標識や看板、パンフレットなどの多言語化やピクトグラムの活用による分かりやすい表示などにも取り組んでいる。

●「タクシードライバーコミュニケーションツール」作成

北海道庁では、16年2月に海外からのお客様を温かくお迎えするため、外国語が話せないタクシードライバーの方でも外国

人対応が円滑にできるコミュニケーションツールを作成した。本ツールは、タクシーの乗車時や降車時に起こり得る接遇場面を想定し、日本語と外国語を併記して作成しており、行き先の確認や到着時間・運賃の目安などをお伝えする際に活用が期待される。

●知床世界遺産10周年

知床は15年に世界自然遺産登録10周年を迎えた。また、前年の14年は国立公園指定50周年であった。これに伴い、環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町が共同で企画運営を行い、さまざまな記念イベントが開催された。15年に開催された事業の一例を挙げると、「国立公園50周年・世界遺産10周年記念式典・講演会（15年7月4日）」や「知床サンセットクルーズツアー（同日）」、「知床世界遺産セミナー（15年7月5日）」などである。また、地域では連泊者を対象に、提示すると協賛店舗で各種特典・割引が受けられる知床パスポートの発行などが行われた。

また、10周年を節目に、北海道議会では16年3月に「北海道知床世界自然遺産条例」を可決、4月1日から施行された。この条例では、知床世界自然遺産の保全などを推進するに当たり、「関係行政機関・団体と道民や来訪者、事業者との協働」や「世界自然遺産としての顕著な普遍的価値に対する道民等の理解の増進」が必要であると謳われ、また、「道は、そのために必要な措置を講ずるもの」と規定された。

このため、北海道として、毎年1月30日を「世界自然遺産・知床の日」とし、シンポジウム、パネル展などの啓発活動を行い、道民や来訪者、事業者、関係行政機関・団体が一丸となって知床の保全などに取り組む機運を高めるとともに、知床の顕著な普遍的価値に対する道民などの理解の増進を図ることを目指すこととした。なお、1月30日は世界遺産登録年の2005年の知床における流氷接岸初日であることにちなんでいる。

●北海道外国人観光客来訪促進計画・北海道観光のくにづくり行動計画の改訂

北海道庁では12年に策定した「北海道外国人観光客来訪促進計画」および13年に策定した「北海道観光のくにづくり行動計画」の見直しを行った。見直しの背景は、14年度の外国人来道者数が154万人となり、目標指標として掲げていた「17年度120万人以上」を達成し、「北海道外国人観光客来訪促進計画」の新たな目標設定が必要となったことによる。目標を表Ⅳ-1-4のように改訂した。

●2015年の新千歳空港年間旅客数が2,000万人を突破

国土交通省新千歳空港事務所によると、2015年の新千歳空港の旅客数は国内線と国際線の合計で前年比6.2％増の2,045万人であった。1988年の開港以来、初めて2,000万人を超えた。国内線は3.6％増の1,835万人、国際線は3.6％増の210万人で、いずれも過去最高を更新した。外国人旅行客の急増や東南アジアからの定期便やチャーター便の新規就航などが影響して、国際線は初めて200万人を超えた。

表Ⅳ-1-4　北海道外国人観光客来訪促進計画の目標数値

	改訂前	改訂後
外国人の来道者数（実人数）	120万人以上	240万人以上
訪日外国人客数における来道外国人客数のシェア	10%	10%以上
全国の延べ宿泊者数における北海道のシェア	10%	10%
北海道に「また必ず来たい」と思う旅行者の割合	60%	60%
「とても満足した」と思う観光客の割合	50%	50%
外国人来道者の道内観光消費額（1人当たり）	15万5千円	15万5千円

資料：北海道「北海道外国人観光客来訪促進計画（平成25年度～平成29年度）」をもとに（公財）日本交通公社作成

（3）市町村の動き

●札幌市文化芸術基本計画の策定

札幌市では07年、札幌市民が心豊かに暮らせる文化の薫り高き札幌のまちづくりを目指すため、「札幌市文化芸術振興条例」が制定され、09年には、文化芸術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に実施するために、「札幌市文化芸術基本計画」を策定した。

しかし、前基本計画期間の5年間で劇場や音楽堂などの活性化に関する法律の施行や文化芸術の持つ新しい役割への注目が高まっていること、札幌市まちづくり戦略ビジョンの策定といった変化があり、その変化に対応するために前計画を見直すこととなった。

新たな計画では、「創造性あふれる文化芸術の街　さっぽろ」を計画テーマとし、「創造性の土を耕す」「創造性の種を蒔く」「創造性を実らせる」「創造性を蓄え、伝える」という4つのステージ別に施策と重点取組事業を設定した。

●札幌MICE総合戦略の策定

札幌市では、10年に札幌のMICEの現状と5年間の方向性を定めた「札幌MICE総合戦略」を策定し、MICEの推進に取り組んできた。戦略策定から5年が経過したことから、最近のMICE市場の動向や他都市の動向を踏まえた新たな「札幌MICE総合戦略」を15年に策定した。主な内容は表Ⅳ-1-5の通りである。

表Ⅳ-1-5　さっぽろMICE総合戦略の策定

ビジョン	札幌の魅力あふれる“ONLY ONE” MICE都市	
重点誘致ターゲット	1	国内およびアジアをターゲットとした学術系の大中規模会議
	2	主に東アジア・東南アジアからのインセンティブツアー
	3	国内外に向けたPR効果の高い政府系国際会議
	4	札幌の特色を生かしたスポーツ関連の会議、大会、イベント
受け入れ基盤強化	1	誘致・開催支援体制の強化
	2	MICE施設整備のゾーン形成の検討

資料：札幌市「札幌MICE総合戦略」をもとに（公財）日本交通公社作成

●札幌市とAIRDOのMICEに関する連携協定

札幌市と株式会社AIRDOは15年8月に、札幌市の観光およびMICE振興の促進を目的に「札幌市の観光・MICE振興に関する連携協定」を締結した。連携協定事項としては、(1) 国内観光およびインバウンド観光の誘致促進、(2) MICE誘致促進、(3) その他両者の協議により決定したこと、が定められた。株式会社AIRDOは15年6月に札幌市がグローバルMICE強化都市に選定されたことを受け、国内外からのMICE誘致の強化に向けて国内航空会社初となるMICEに関する割引運賃「MICE割引運賃」の設定を行い、9月より販売を開始した。

●札幌市電のループ化

札幌市内を走る市電が15年12月にループ化された。「西4丁目」と「すすきの」停留場との間、約400mの路線がつながり、「内回り(反時計回り)」と「外回り(時計回り)」の運行となった。また、「狸小路」停留場が新設され、内回りの「西4丁目」停留場が駅前通りに面した場所に変わった。市民や観光客の交通手段としての利便性向上が期待される。

●様似町のアポイ岳がユネスコ世界ジオパーク登録

様似町のアポイ岳は08年に「日本ジオパーク」に認定され、15年に「ユネスコ世界ジオパーク」加盟を果たした。アポイ岳ジオパークでは、メインテーマとして「地球深部からの贈りものがつなぐ大地と自然と人々の物語」を設定し、さらにサブテーマが3つ定められている。サブテーマA:かんらん岩から大地の変動を学び楽しむ、サブテーマB:アポイ岳の高山植物から自然環境を学び楽しむ、サブテーマC:歴史から自然と人間社会の共生を学び楽しむ、である。

アポイ岳のユネスコ世界ジオパーク認定で日本国内で8地域目の認定となった。

●美瑛町の「哲学の木」の伐採

美瑛町の名所であった「哲学の木」が16年2月に伐採された。多くの観光客を魅了してきた風景だったが、近年、特に観光客やカメラマンのマナーの悪さが問題となっており、農作業に影響が出ていたため、地主が苦渋の決断をしたものである。

●白老町(しらおいちょう)にて飛生芸術祭2015の開催

白老町では、白老町の旧飛生小学校を拠点に活動する若手アーティストたちが中心となり、09年から毎年“僕らは同じ夢をみる”をテーマに「飛生芸術祭」を開催してきた。15年は5年計画で進めてきた「飛生の森づくりプロジェクト」の節目の年として位置づけられ、15年9月6日〜13日に開催された。

●美唄市におけるVRを用いた観光情報提供

美唄市は日本で初めてスマートフォンやタブレットで観光体験ができるバーチャルリアリティアプリ「VR観光体験〜北海道美唄市〜」を開発した。アプリを通じて美唄市の観光名所を360度の立体風景で楽しむことができ、市販のVRゴーグルにも対応している。

●スキーリゾートのホテル経営などへの外資参入

キロロリゾートにあるホテルのブランドが15年12月に変わった。「マウンテンホテル」は「シェラトン北海道キロロリゾート」、「ホテルピアノ」は「キロロ・トリビュート・ポートフォリオ・ホテル北海道」となった。いずれも米スターウッドホテル&リゾート運営が経営を担う。ルスツリゾートでは15年12月に、ルスツタワーが「ウェスティンルスツリゾート」に変わった。また、15年11月には、星野リゾートトマムは上海豫園旅游商城(豫園商城)が全株式を183億円で取得することが発表された。

(西川亮)